

分校コードブルー

十月七日に若草養護学校分校で緊急事態発生時の訓練を行いました。Bグループの生徒が水分補給中、痰を詰まらせ心肺停止状態になったという想定で訓練しました。発見と同時に教員が応援を呼び、養護教員、学校看護師が駆け付け状態確認後、施設への応援要請をしました。

電話で施設事務所に応援要請が入ると、事務所から全館放送で「分校、コードブルー！、コードブルー！分校、コードブルー！コードブルー！」が流れ、マニュアル通り、医師と各病棟から看護師が分校に駆け付けました。学校から事務所に電話依頼をして約2分で医師が現場に着、各病棟から次々に看護師が駆け付け、救急蘇生の機材が到着したのは3分半程でした。



緊急時の訓練場面

訓練を重ねているためか昨年に比べ色々な面で手際良く出来るようになっていきましたが、反省点も幾つか出され、今後の緊急時の意識改革にもなりました。今後も分校との連携協力体制を整えていく必要があります。施設の中でも緊急時はコードブルーを行うことになっていきますが、このような訓練がいざという時に活かせるようにしたいと思います。

スイートライオンズ コンサート♪

今年もやってきました「スイートライオンズ」、司会はフアーマー土居さん。エレキギターとドラムの迫力の音に、からだをいっぱい動かかしリズムに乗っていました。

ライブ感いっぱいのおベンチャーソング、加山雄三の歌声（ほんとにそっくりですよ）をみんなで楽しみました。お土産に高知であい博の龍馬伝フェイスタオルを一人ずつ頂いて大喜び。高知北ライオンズクラブのみなさん、ありがとうございました。



ライオンズクラブの皆さんに今年も楽しい演奏をしていただきました♪ ありがとうございます。

私の仕事 (11)

調理師 佐野由女美



私は利用者の皆様にお食事を提供する仕事をしています。厨房は希望の家の真ん中にありながら、私たち調理師の調理する姿や現場をご覧になったことのある方は少ないかも知れません。

「給食のおばちゃん」的なイメージを持っている人も、もしかしたらいるかも……？ 私たちは調理室という限られた空間での仕事なので、利用者の皆様と直接関わることとはあまりありません。ですが、配膳されているお盆の上に乗っている「食札」を通して、お食事される利用者の方一人ひとりの顔を見ながら、毎日仕事をしています。

給食は2名の栄養士と9名の調理員、2名の調理補助員で仕事をしています。安全・安心なおかつ美味しいお食事をいかに提供できるか、日々奮闘しております。

私たちを見かけたら、気軽に声をおかけ下さいね。私たちが一番励みにしていることは、利用者の方の「おいしかったよ」「今日の昼何？」などの言葉です。そんな言葉を楽しみに、毎日の仕事をこれからも頑張っていきたいと思えます。

当施設も創立40周年を迎え、創立当初より入所しておられる利用者もおられます。当施設は訓練や医療ばかりでなく、生活の場でもあります。入所者の高齢化、重度化も目だってきました。呼吸障害、嚥下障害、胃食道逆流現象、消化管障害また加齢と関係が深い、悪性腫瘍の可能性や老化の問題も同時に考えてゆく必要があります。

気管切開術や胃ろう造設など侵襲的な処置を要する場合は、単に延命のためだけでなく、その処置によって、その方の生活の質(QOL)がいかに改善されるかを充分検討がなされてすすめる必要があります。単に医療だけでなく生活からの視線が必要で。

当施設では、1病棟、3病棟、そして2病棟とそれぞれ特徴のある病棟があり、これらの利用者の変化に応じて、どの病棟でケアするのが最も望ましいかについては、今後の再検討が必要になってくると思われま



施設長交代 長博雪施設長あいきり



長 博雪
施設長

長年、当重症心身障害児施設「土佐希望の家」の施設長をなされてこられた江口壽榮夫先生の後任として当園施設長に就任いたしました、長でございます。

本年4月より当施設に来させて頂き、高知の気候・風土にも少しずつ慣れてきました。今後とも、障害を持つ方の生活に基

本を置く医療、療育をすすめてゆき、入所あるいは地域支援事業を通し利用者の皆様から、「土佐希望の家に来てよかったなあ」と言ってもらえるような施設を目指して頑張りたいと思えますので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

全国の重症心身障害者の入所施設は公立、民立等で約120か所、その他、旧国立療養所関連の施設もございます。

近年、重度障害児者の療育・生活に関し国民の意識状態が変化し、できるだけ障害を持つ方も一般社会の中で生活してゆくことが叫ばれ、ノーマライゼーションの動きなどの経過の中で、障害者自立支援法が制定、実施されてきました。民主党政権となり、見直し、再検討の動きはありますが、大きな流れは変わらないと思えます。

現在の施設の役割は、従来の入所利用者に対するケアだけではなく、在宅障害者の支援の大きな役割を持つように変化してきました。当、土佐希望の家も、通園通所事業、短期のお預かり事業(レスパイト事業)を通じてこれらの役割を果たしてきております。

重症児を毎日24時間ケアしている家族にとつて、専門家集団のいる重症児施設に短時間でも預かって頂き、ほっと一息をつく、いわゆる「レスパイトサービス」は慢性的な疲れを回復し、次に頑張ろうという意欲を高める大切な役割があります。こうした中で、在宅重症児のケアに関して、専門職として、相談を受けたら、こうした方がいいよという指導をしてゆく役割があります。

保護者（利用者）へのサービスに対する負担について

施設の職員が保護者の方に代わって行政手続等を行う場合、今後は次のとおり費用の負担をお願いすることになりますので、よろしくお願ひいたします。

(1) 金額

- ① 行政手続代行料
南国市：手続先1件につき1,500円
高知市：手続先1件につき2,000円
- ② 年金管理料 月1,000円

(2) 費用納入方法 利用料に合わせて引落とし

(3) 実施時期 平成23年1月1日から

「」厚意

【寄付金・寄付物品】

田村こどもクリニック様 北村忠司様 小林豊様 曾我憲司様 田村光昭様 尾崎剛様 野嶋敦子様 岩田英展様 竹内洋様 久富久貴様 岡本庸夫様 高知ライオンズクラブ様 松田貞美様 森尾まり子様 土佐希望の家保護者会様 森本昌子様

ありがとうございました。
今後ともよろしくお願ひします

☆ 編集後記 ☆

今回は初めて特集号を追加発行しました。いかがだったでしょうか？これからも楽しい記事をたくさん載せていきます。

さらに、養護学校に対する支援事業、外来診療、外来訓練を通じて、在宅支援を行っております。施設は入所者の為だけの施設ではないということです。施設には、医師、看護師、訓練士、療育員、ソーシャルワーカー、事務職員、給食職員など様々な職種の職員が配置されており、話し合いを持ちながら、それぞれの職種・役割の専門家として、利用者を中心にしたような優れた療育サービスが提供できるか検討しております。このためには、常に積極的な研修、自己研鑽の努力が必要であり、施設としてもこれを支援してゆく方針です。

上記の点、ご理解頂いて、今後とも病棟の運営にご協力頂ければとお願ひもうしあげます。

2010年 10月26日
土佐希望の家 施設長 長博雪

第十四回スピリットアート展 入選おめでとうございます！



3病棟あざみ
大前隆彦様



入選作品「水浴びの女」

土佐希望の家通信

<発行>重症心身障害児(者)施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133/
http://www.tosakibou.jp Email:tosakibo@i-kochi.or.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 中屋 淳

ロードレース大会

十月二十七日、晴天。風の冷たい日でした。ロードレースの開始を前に、玄関前は各病棟の選手のみなさんと、熱気にあふれていました。

ゼッケンがコールされると、顔を紅潮させ次々とスタート。自力、電動、介助、車いす、歩行、職員体験コースとそれぞれの力を出しきりました。今年は希望の家分校の生徒さんも参加。熱い応援がドラマをつくり、大変盛り上がりました。優勝されたみなさんおめでとうございます。



ロードレース参加者の皆さんは元気にスタート！それぞれのペースで特設希望の家コースを走り（歩き）ました。

「平成二十二年療育キャンプを終った」 守る会高知県支部・事務局

九月二十六日・二十七日の両日に渡って高知新阪急ホテルで研修会を実施しました。重症児（者）参加者十二名（内在宅者九名、入所者三名）で、この研修会には土佐希望の家施設長・長博雪先生をはじめ小谷療育部長を中心とする通園、第一病棟、第二病棟、第三病棟の看護、療育担当者、OB、保護者等多くの皆様がスタッフ・ボランティアとしてご協力頂きまして無事終了することが出来ました。

在宅のお母さん方にとって毎日、気の許せない日々が続いております。このような状態から少しでもゆつたりとした気持ちと多くの仲間や希望の家の看護、療育担当者との情報交換、具体的方法を話し合い、特に母親同士が今後もコミュニケーションできればと考えて実施しました。そのため今回の研修の中で母親会も実施しています。

また多くの皆様から長先生の「重症児（者）の療育について」の講話をはじめ希望の家の看護、療育担当者の皆さんとの触れ合いにより、大変勉強をさせて頂き良かったというアンケート結果を頂いています。

守る会高知県支部においても土佐希望の家の職員の方や保護者の皆様のご指導ご協力を頂きながら、今後も在宅重症児（者）の育成に努力してまいりたいと考えています。皆様の支援有り難うございました。



「遠征行ってきました！」



北川村モネの庭
高知ろまん社中
城西館
イオン高知などなど

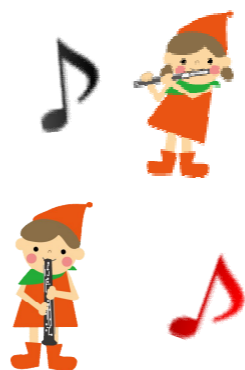


「フライング・ウィンド・アンサンブル」



十一月十四日（日）、フライデー・ウィンド・アンサンブルの皆さんが今回は2病棟のホールでコンサートを開いてくれました。

毎年、在宅支援センターのクリスマス会でも演奏していただいています。今回はクラリネット、フルート、オーボエでのアンサンブルコンサートでした。普段はなかなか聞くことのできない生演奏に利用者の皆さんもうつりと耳を傾けていらつしました。どうもありがとうございました。



「1か月の実習を通じて」



高知福祉専門学校
社会福祉学科3年 横田悠香

八月二十三日から九月二十四日までの1か月間、土佐希望の家で実習をさせていただきました。そのなかで多くの経験をさせていただきました。

利用者様と長い時間関わることや、利用者様の生活介助は初めての経験で、分からないことがたくさんあり、戸惑うことも多くなりました。しかし、職員の方々が丁寧に指導してくださったり、また利用者様も温かく迎えてくださったので、徐々に戸惑いも少なくなり、充実した実習生活を送ることができました。

最初は利用者様とどのようにコミュニケーションを図ってよいのか分からず、戸惑いでしたが、毎日顔を合わせて挨拶を交わし、余暇時間を利用して関わるなかで、次第にコミュニケーションも図れるようになり、利用者様の笑顔を見ることができるようになりました。利用者様の笑顔を見られたことは1か月の実習においてとても励みになりました。

また、利用者様と関わるなかで、どのようにすれば楽しんで頂けるかということも深く考えることができ、一人ひとりに応じた関わり的重要性を実感しました。さらには、利用者様の現在の状況や背景などを把握し、一人ひとりに添った介助方法などを工夫し行うことの大事さも学ぶことができました。

「ちょっぴり話」



2病棟看護師 森本仁三

ある日の午後、少し時間が空いたので、中村達也さん、野村和人さん、岡林秀宜さんに絵本を読んでみることにしました。西病棟の本棚の奥に、「さわって遊ぶ絵本」がありました。毛布、ふわふわの毛、ガサガサの紙...。絵本の中には様々な手触りの布が貼られていました。3人共、さわってどんな反応をするだろうかと見ていると、手触りの良いものは興味深くじつじつと、不快に感じるものは泣きそうなお顔をしたり、眉をひそめたり、手を引っ込めたりと、想像以上の反応に、うれいやらおかしいやら。楽しい時間を過ごすことができました。



私は今回実習させていたくまでは、施設には決まりがあり、利用者様の時間や生活が制限されているというイメージがありました。が、限られたなかでも利用者様が好きなことを楽しめる環境が整えられていたり、他の利用者様と楽しみながら交流を深められるよう取り組みが行われていたり、職員の方々が様々な工夫をされている様子を知ることができ、施設に対するイメージや利用者様への支援の在り方についての理解も変化していきました。何より職員の方々が利用者様すべての方の生活を一番に考え支援されているということに感動しました。

1か月という短い間でしたが、職員の方々に温かく見守っていただき、楽しく安心して実習に取り組めたこと、利用者様と充実した日々を送ることができ多くの学びが深まったこと、数々の誇りができ、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



高知県社会福祉大会会長表彰

十一月二十四日、第六十一回高知県社会福祉大会会長表彰を土佐希望の家から3名の職員が受けました。おめでとうございます。

表彰種別 感謝
表彰区分 社会福祉施設・社会福祉事業団体
氏名 西岡 勉
小野 直
小谷 卓

